

# 高齢者福祉部会（第2部会）活動実績報告書

## 1. 取り組みの重点指針

初年度・・・地域包括支援センター・新総合事業等、高齢者の福祉に関する基本的な知識の取得

2年度・・・福祉にかかわる制度の理解と認知症に対する理解・対応

3年度・・・認知症等の介護の実際・在宅医療・訪問医等の理解・学び

## 2. 年度別の活動概要

### 初年度（平成29年度）

地域包括支援センター、介護保険制度、総合事業について市から講義をうけ、基本的な理解を深めた。またケアマネジャーとヘルパーの違いを学んだ。湖東リハビリステーションでの福祉用具の見学・使い方の実践、ゆいの里の施設見学、市内6施設でのボランティア活動の体験、ちよこっとサポートみそのへの訪問研修等を通して、高齢者の福祉に関する基本的な知識を体得した。



H29. 7. 20 訪問研修：湖東リハビリステーション（東近江市）

### 2年度（平成30年度）

介護保険制度・成年後見制度・地域福祉権利擁護事業について理解を深めた。また地域包括ケアセンターいぶきへの訪問研修や草津市民児協高齢者部会との交流を通して、地域の福祉について学習した。藤本クリニックの藤本先生と「認知症の人と家族の会」の田丸氏を講師に迎え、認知症の早期治療や周囲の人が心を寄せる大切さを学んだ。回想法のグループによる実践と体験により、認知症の予防について少し理解を深められた。

### 3年度（平成31年・令和元年度）

高齢者福祉部会員による介護経験談を聞き、家族、地域、行政、医療等が協力し合うことの大切さを痛感した。えとうクリニックの衛藤先生より、訪問医や在宅医療のしくみ、かかわる人々について分かりやすく説明を受け、高齢化が進む今日、安心して医療を受けるとは何かを考えさせられた。また、ゆいの里へ3年続けて訪問研修をすることによって、施設側と民生委員児童委員の交流も深まり、地域の課題についても話し合うことができた。

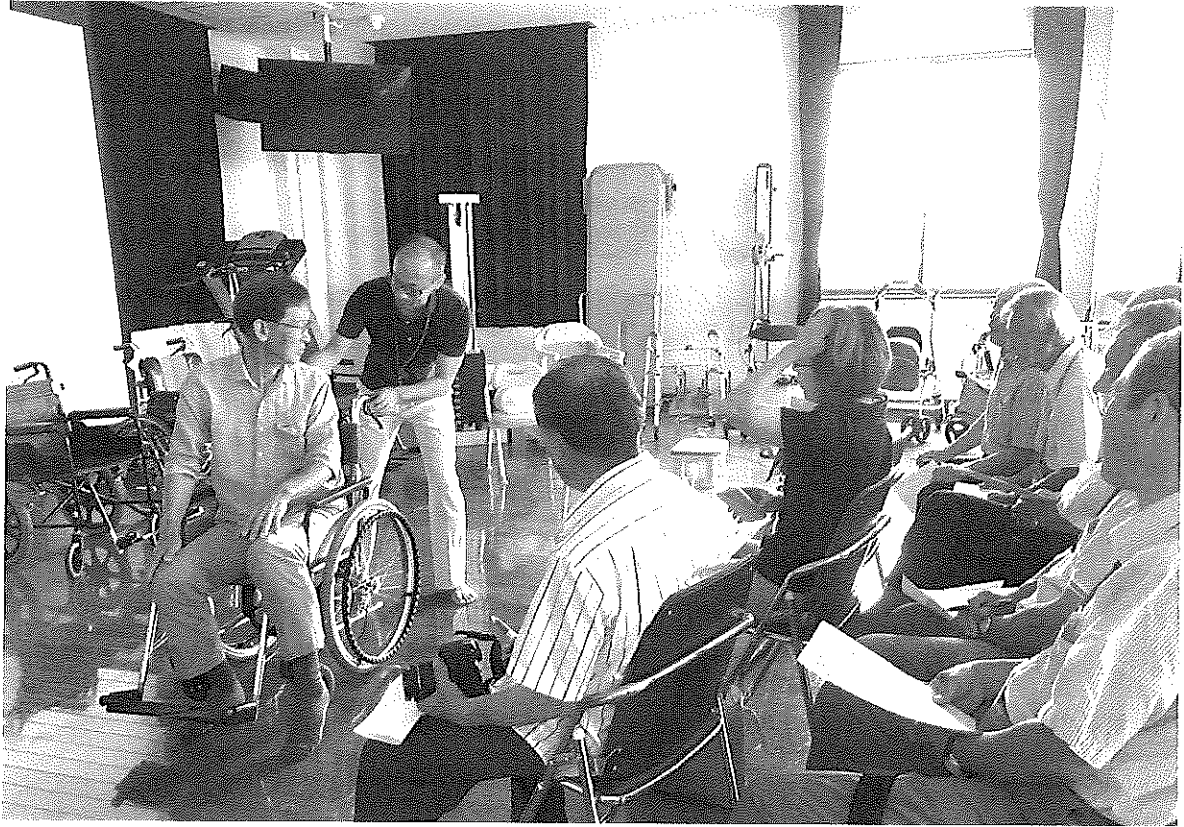
## 3. 成果と課題

### 主な成果

- ・関係機関の仕事内容や制度の学習は、在宅で介護をされている方の苦勞等を理解することができ、日常の活動に生かされた。
- ・施設見学やボランティア活動等では、施設職員やケアマネ等、立場の違う人と話し合うことでよい交流ができ、お互いの理解が深まった。
- ・認知症の研修については、医療と介護の両面から焦点を当てた研修で、理論・経験談とも分かりやすかった。
- ・部会員の介護経験を聞くことで、介護をさらに身近に感じることができ、自分にも関係することとして捉えることができた。
- ・在宅医療については、医療関係者のチーム体制や家族の協力が大切であることを理解できた。

### 今後の主な課題

- ・高齢者を地域で支えるには、ボランティアの高齢化や減少といった課題もあるが、ますますのボランティアの育成が必要と考えられる。
- ・地域での福祉を推進する住民は、色々な場面を知ってこそ対応ができるので、関係機関による研修等に積極的に参加し、知識を習得しておくことが必要である。



2016. 7. 20 湖東リハビリステーション



2018/9/14 草津市高齢者福祉具貝との交流